

令和 7 年 度

幼稚園教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅱ)

注 意 事 項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 氏名、受験番号を「令和7年度 幼稚園教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号をマークしてください。
4. 「解答カード」の中で特に受験番号の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て「解答カード」の解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず黒鉛筆(HB)を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、プラスチック製消しゴムで完全に消してください。また、「解答カード」を曲げたり折ったりしてはいけません。
「解答カード」が汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に「解答カード」の交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ○ × ⊕ ⊙

問 1 次の各文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 1 幼稚園教育の基本」の一部である。文中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

2 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第 2 章に示すねらいが ① されるようにすること。

3 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、② をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の③ がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。

	①	②	③
ア	確実に達成	多様な経過	体験活動
イ	総合的に達成	一定の経過	体験活動
ウ	確実に達成	一定の経過	生活経験
エ	総合的に達成	多様な経過	生活経験

問 2 次の各文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」」の一部である。このうち「幼稚園教育において育みたい資質・能力」として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

イ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

ウ きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、きまりをつくったり、守ったりする「道徳性・規範意識の芽生え」

エ 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

問 3 次の各文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容」の一部である。領域健康の「ねらい」として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- イ 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- ウ 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- エ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

問 4 次の①～④の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 環境 2 内容」に示されたものである。各文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- ② 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、飼育を行う。
- ③ 日常生活の中で数量や図形などを覚えて活用する。
- ④ 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	○	×	×	○
イ	×	○	×	○
ウ	○	×	○	×
エ	×	○	○	×

問 5 次の文章は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

家庭との緊密な連携を図るようにすること。その際、① を設けたりするなど、② が、幼稚園と ③ という意識が高まるようにすること。

- | | ① | ② | ③ |
|---|---------|------|----------|
| ア | 情報交換の機会 | 地域住民 | 連携していく |
| イ | 多様な連携内容 | 保護者 | 連携していく |
| ウ | 情報交換の機会 | 保護者 | 共に幼児を育てる |
| エ | 多様な連携内容 | 地域住民 | 共に幼児を育てる |

問 6 次の文章は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 2 月文部科学省)「第 1 章 総説 第 3 節 教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

円滑な接続のためには、幼児と児童の ① を設け、連携を図ることが大切である。特に 5 歳児が小学校就学に向けて ② を高めて、極端な不安を感じないように、就学前の幼児が小学校の活動に参加するなどの ③ も意義のある活動である。

- | | ① | ② | ③ |
|---|--------|----------|-------|
| ア | 交流の機会 | 自信や期待 | 交流活動 |
| イ | 仲を深める場 | 生活力や学びの力 | 交流活動 |
| ウ | 仲を深める場 | 自信や期待 | 就学前活動 |
| エ | 交流の機会 | 生活力や学びの力 | 就学前活動 |

問 7 次の文章は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 2 月文部科学省)「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 1 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

① に当たり、地域の実態や保護者の事情とともに大切なことは、幼児の健康な心と体を育てる観点からの幼児の ② に配慮することである。このため、例えば、夕食や就寝時間が遅くなったりすることのないよう、③ を設定するなどの配慮が必要である。

- | | ① | ② | ③ |
|---|--------|--------|------|
| ア | 計画的な実行 | 遊びの連続性 | 活動時間 |
| イ | 弾力的な運用 | 遊びの連続性 | 生活時間 |
| ウ | 弾力的な運用 | 生活のリズム | 活動時間 |
| エ | 計画的な実行 | 生活のリズム | 生活時間 |

問 8 次の①～④の文は、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成 30 年 3 月内閣府・文部科学省・厚生労働省)「第 3 章 健康及び安全 第 2 節 健康支援」の一部である。各文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 園児に身体の状態を把握するための視点としては、低体重、低身長などの発育の遅れや栄養不良、不自然な傷やあざ、骨折、火傷、虫歯の多さ又は急な増加等が挙げられる。
- ② 入園の際には、生活管理指導表等を参考に、園児一人一人の予防接種歴や感染症の罹患歴を把握し、その後、新たに接種を受けた場合や感染症に罹患した場合には、学校医から園に連絡してもらい、情報を共有することが大切である。
- ③ 食物アレルギーのある園児の誤食事故は、注意を払っていても、日常的に発生する可能性がある。食器の色を変える、座席を固定する、食事中に保育教諭等が個別的な対応を行うことができるようにする等の環境面における対策を行う。
- ④ 与薬に当たっては、預かった保育教諭が対象の園児を確認し、重複与薬、与薬量の誤認、与薬忘れ等の誤りがないようにする必要がある。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	×	×	○	○
イ	○	○	×	×
ウ	×	○	×	○
エ	○	×	○	×

問 9 次の各文は、『幼児理解に基づいた評価』(平成 31 年 3 月文部科学省)「第 1 章 幼児理解に基づいた評価の意義 1 幼児理解と評価の考え方」の一部である。幼児理解の評価の考え方として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア あらかじめ教師が設定した指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか。
- イ 環境の構成はふさわしいものであったか。
- ウ 日常的な素朴な振り返りも保育の改善に役立ちうるものである。
- エ 評価は実践後、毎回必ず時間を決めて行わなければならない。

問10 次の文章は、『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』(令和3年2月文部科学省)「第4章 指導計画の評価・改善のポイントと実際 1. 指導計画の評価・改善のポイント」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児の発達を理解するとは、幼児の表面に現れた事象を平均的な発達の道筋に照らし合わせて、「 ① 」を捉えることではありません。幼児の行動から幼児の内面を理解し、どのようなことに興味や関心をもってきたか、興味や関心をもったものに向かって自分の力をどのように発揮してきたか、友達との関係はどのように変化してきたか、 ② への取り組み方はどうかなど、幼児一人一人の ③ を理解することです。

- | | ① | ② | ③ |
|---|---------------|----|--------|
| ア | 良いか悪いか | 遊び | 園生活の実態 |
| イ | できるようになったかどうか | 生活 | 発達の実情 |
| ウ | 良いか悪いか | 生活 | 園生活の実態 |
| エ | できるようになったかどうか | 遊び | 発達の実情 |

問11 次の①～④の文は、『指導と評価に生かす記録』(令和3年10月文部科学省)「第3章 記録を指導や評価の実際に生かす 1. 記録を通して幼児理解を深める」の一部である。各文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 記録の様式は指定されたものです。
- ② 記録は、教師が自身の指導を振り返る上でも重要な資料です。
- ③ 記録には、教師自身の幼児の見方や保育の考えなどが反映されているものです。
- ④ 記録は、幼児のためだけのものです。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	×	○	○	×
イ	○	○	×	×
ウ	○	×	×	○
エ	×	×	○	○

問12 次の①～④の文は、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年3月)「第4章 子育ての支援 第2節 子育ての支援全般に関わる事項」の一部である。各文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 受容とは、不適切と思われる行動等であっても無条件に肯定することである。
- ② 援助の過程においては、保護者が適切な行動をとれるように指導することが大切である。
- ③ 援助関係は、安心して話をすることができる状態が保障されていること、プライバシーの保護や守秘義務が前提となる。
- ④ 状況に応じて、地域の関係機関等との連携を密にし、それらの専門性の特性と範囲を踏まえた対応を心掛ける必要がある。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	○	○	○	○
イ	○	○	×	○
ウ	×	×	○	○
エ	×	○	○	×

問13 『幼稚園教育要領解説』(平成30年2月文部科学省)「第1章 総説 第4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価 3 指導計画の作成上の留意事項」の(3)では、「幼児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図ること」が示されている。次の①～④の文は、幼児の言語活動の充実の観点から、幼稚園教育において指導上大切なことを示したものである。内容に誤りのあるものが幾つあるかを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 幼稚園においては、言語に関する能力の発達が思考力の発達と相互に関連していることを踏まえ、幼稚園生活全体を通して、言葉を獲得していく系統的な指導を行うことが大切である。
- ② 獲得した言葉を幼児自らが用いて、友達と一緒に工夫したり意見を出し合ったりして考えを深めていくような言語活動の充実を図ることが大切である。
- ③ 教師が幼児一人一人にとって豊かな言語環境となることを自覚する必要がある。特に、教師の日々の指導や行動する姿が幼児の言動に大きく影響することを認識しておくことが大切である。
- ④ 幼児が自分なりの言葉や言葉以外のもので表現したとき、それらを教師自身が受け止め、言葉にして応答していくことで、幼児が伝え合う喜びや楽しさ、表現する面白さを感じていくことが大切である。

- ア 三つ
- イ 二つ
- ウ 一つ
- エ なし

問14 『幼稚園教育要領解説』(平成30年2月文部科学省)「第1章 総説 第4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価 3 指導計画の作成上の留意事項」の(4)では、「幼児が次の活動への期待や意欲をもつことができるよう、教師や他の幼児と共に遊びや生活の中で見通しをもったり、振り返ったりするよう工夫すること」が示されている。活動の区切りや1日の生活の終わりに学級全体で集まる場面において振り返りを行う際、教師はどのようなことを大切にするとよいか、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 教師は、話し合いの中心にいて、幼児一人一人の言葉に耳を傾けながら、幼児が言い尽くせないでいる、あるいは他の幼児に伝えきれていない言葉を補いながら、学級全体で楽しく話し合う雰囲気をつくるようにする。

イ 幼児の主体性や自発性が大事であることから、教師は介入せず、幼児同士の話し合いに任せるようにすることが大切である。

ウ 幼児なりに見通しをもつことは、次の活動への目的が明確になり意欲も高まることから、入園当初より一日の生活の流れの中に、「朝の会」「帰りの会」などの学級全体で話し合う場を位置づけるようにする。

エ 活動のひと区切りの場面では、明日の指導計画に基づいた教師の指導の意図を伝えるようにする。

問15 次の文章は、幼児が遊びの中で、自分の体験から文字を読んだり書いたりして楽しんでいる姿を示したものである。幼児の文字に対する感覚として育みたいこと、また、その姿に関わる教師が大事にすることはどのようなことか、最も適切なものを下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

レストランごっこをしている幼児が、メニューに「あいすくりむ」「じゅす」と書いている。そして、片付ける際には、「おやすみ」と書いた紙を店に貼っている。

ア 幼児の書く文字の表記には不十分なところがあるため、教師は、その場で正しい表記の仕方に直すようにする。

イ 幼児は、遊びに密着した形で、必要感をもって文字の意味や役割を認識していく。

ウ 文字への興味や関心は個人差が大きいので、小学校教育を見通し、幼稚園修了までに読んだり書いたりできるようにしておく必要がある。

エ 文字に関する系統的な指導は小学校教育において行われるため、幼児期には指導しない。